

也、事

〔倭訓栞波前編二十四〕はま 神代紀に濱、又汀をよみ、新撰字鏡に涸もよめり、端海ハナウミの義也といへり、

略○中はまわは濱曲也、はまづらは濱面也。

〔八雲御抄三上〕濱 やをかゆく八百日ゆ 心なり 玄ら なが

〔藻鹽草水邊〕濱

玄ら濱 なか濱 やをかゆく濱八百日行く也 七日ゆく濱のまさご是も 濱の眞砂 あら

き濱邊の所いせ也、但又餘 濱びさし高き眞砂の也、又は只眞砂の礫也共云り こす濱の事也、一説

のとなつと云るも、は へた海邊たと云り、へたとは總てはまなどの名也、但はまにはあり

濱中 濱崎 濱きよみ

〔日本書紀二代〕逢鹽土老翁略○中 乃作無目籠、内彦火火出見尊於籠中沈之于海、即自然有可伶小江、

可伶此云于麻師、江此云波麻、於是棄籠遊行、

〔枕草子九〕はまは

そとのはま、ふきあげのはま、ながはま、うちでの濱、もろよせのはま、千里のはま、こそ、ひろふおも

ひやらるれ、

〔奥義抄上ノ末〕出萬葉集所名 普通名所不注略○中

濱

おほわたりはま たつなのはま すみよしのはま なこしのはま きらのはま あくら

のはま たかしのはま きくのなかはま きくのたかはま はやみはま ふなせのはま

まなの、はまこしのうみの よろぎのはまさがみちの いてみのはますみよしの かみの

をばまおほさきの

名濱